

(1) 資源の保護・増殖を図ります！！

【現状と課題】

漁業者が安定した漁獲量を確保し、持続的に漁業活動を営むためには、水産資源の保護・増殖は、重要な課題です。

【5年後の目標】

放流種苗

(平成22年度) 4種 ⇒ (平成28年度) 5種

【展開する施策】

水産資源の増殖のために、種苗の放流を行うとともに、漁業者による禁漁区の設定や漁獲する魚体の大きさ・量の制限による自主管理を行いながら、資源の保護・増殖を図ります。

- 禁漁区へ種苗の放流を行います。
- 第2期宮崎海域カサゴ資源回復事業を実施します。
- 幼稚仔育成施設の有効活用を図ります。
- 休漁日、禁漁区の設定を行い、資源の保護・増殖を図ります。



カサゴ稚魚の放流



幼稚仔育成施設

(2) 漁業環境の保全を図ります!!

【現状と課題】

地球温暖化等による気候変動は、局地的な豪雨による河川の氾濫、土砂やゴミの堆積など、漁場環境を悪化させ、水産資源の生産力の低下や漁業操業へ影響を及ぼします。

【5年後の目標】

掃海作業実施回数

(平成 22 年度) 1回 ⇒ (平成 28 年度) 1回

【展開する施策】

操業の妨げとなる海底ゴミの回収等を行い、生息環境及び漁場環境の保全を図るとともに、水産生物の再生産機能の回復を図るため藻場の造成や生態調査に取り組みます。

また、二酸化炭素の排出量を軽減するために国が取り組んでいる漁船へのバイオディーゼル等の活用について調査研究を行います。

- 底曳船による掃海作業を実施します。
- 環境・生態系保全活動支援事業を実施します。
- 家庭の廃油を漁船の燃料として活用するための調査研究を行います。



掃海作業中の底曳漁船



藻場礁